

第四十節の隠された歴史—第十八番号

第二の災い — 第五部

Jeff Pippenger

2026-07-15

黙示録第九章におけるニネベの戦いを表す「鍵」は、転換点を生み出した歴史によって成就した。もちろん、それこそが鍵の果たす働きである。私の主張は、ニネベの戦いがイスラムの興隆を画する歴史的な鍵であっただけでなく、預言的な鍵でもあるということである。その戦いの預言的力学は、ダニエル書および黙示録に示されている聖書預言の諸王国のすべての系譜を、ダニエル書第十一章と整合させる。こうしてそれは、それらの王国すべてがダニエル書第十一章最後の六節について証言することを可能にし、さらに重要なことには、第四十節の外的な隠された歴史の封印を解くのである。

わたしは、あなたに天の御国の鍵を授けよう。あなたが地上でつなぐことは何でも天においてもつながれ、あなたが地上で解くことは何でも天においても解かれるであろう。マタイ 16:19.

ムハンマドの王国の解放と台頭

627年におけるニネベの戦いは、神の摂理という霧を伴いつつ、ローマの策略によって打ち破られたペルシア勢力の最後の十年間の始まりを画した。それはまた、ムハンマドのイスラムの大軍が台頭し始める転換点を画した。この戦いは、かつて存在していた一つの抑制を取り除いたのであり、その抑制は、理論上、もしローマとペルシアの双方がその力を保持していたならば、なお存続していたであろう。だが、いずれもそうではなかった。

抑制と解放

イスラムの預言的表象において、聖書の最初の導入そのもののうちに、イスラムの抑制と解放を見るのである。すなわち、サラがアブラハムを説得して、ハガルとイシュマエルを抑制させたのである。

サライはアブラムに言った。「私の受けた不当は、あなたの上にありますように。私は自分の女奴隷をあなたのふところに与えましたが、彼女は自分が身ごもったのを見て、私をその目に軽んじるようになりました。主が、私とあなたとの間をおさばきになりますように。」しかし、アブラムはサライに言った。「見よ、あなたの女奴隷はあなたの手の内にある。あなたの目にかなうように、彼女にしなさい。」そこでサライが彼女を苦しめたので、彼女はサライの前から逃げ去った。創世記 16:5, 6

その出来事以前から、ハガルが預言的叙述の中に登場する理由は、主がサラの出産を「差し止めておられた」からである。

さて、アブラムの妻サライは彼に子を産まなかった。彼女にはハガルという名の、エジプト人の女奴隷がいた。サライはアブラムに言った。「ご覧ください、主は私が産むことをお差し止めになりました。どうか私の女奴隷のところにお入りください。彼女に

よって、私は子を得ることができるかもしれません。」アブラムはサライの声に聞き従った。創世記 16:1, 2.

ムハンマドに与えられ、その後ニネベの戦いによって成就した黙示録九章の「鍵」は、預言的歴史のいかなる時点においても、イスラムに対する「抑制」が取り除かれることを表している。

「御使いたちは四つの風を押さえているが、それは、怒り狂った馬が解き放たれて全地の表を駆け巡ろうとし、その行く手に破壊と死をもたらそうとしているものとして表されている。」『Manuscript Releases』第20巻、217.

ムハンマドの王国の「興隆と衰退」は、興隆と衰退としてというよりも、むしろ「解放放ち」と「抑制」として表されている。イスラムが預言的に解放放たれるとき、その解放はニネベの戦いによって例示されてきた。

ただ災いのみ

七つのラッパのうち、イスラムの禍いのラッパだけが、預言の歴史に最初に導入された時から恩恵期間の終結に至るまで、一貫した勢力として歴史にまたがっている。西ローマにもたらされた最初の四つのラッパは、オドアケル、ゲンセリック、フン族のアッティラ、そしてアラリックを表しており、それゆえ終末時代における神の摂理的な四つの裁きの勢力を予表していたが、その現代における対応物は、それら四つの古代勢力の直接の継承ではない。禍いのラッパはこれと異なる。いったんイスラムが歴史の中に入ると、それは恩恵期間の終結において完全に解放放たれる時まで、解放と抑制の直接的な系譜を継続する。禍いのラッパにおいて、「解放」の「鍵」はニネベの戦いによって画されている。

ニコメディアと1299年7月27日

先駆者たちは、1299年7月27日を、1449年7月27日に終わる百五十年の起点として正しく特定した。そして、その1449年7月27日が、1840年8月11日に終結する三百九十一年と十五日との始まりとなったのである。

前回の記事において、私たちは、オスマン・ベイリクの創始者オスマン1世の子であるスルタン・オルハン・ガaziが、重要なビザンツ都市ニコメディアを包囲した際、1333年から1337年にかけてニコメディアにもたらされた包囲を特定した。この包囲は、彼の父オスマンによって始められていたニコメディアに対する戦争の結末である。黙示録第9章10節の百五十年は1299年7月27日に始まり、そして一つの預言の開始として、その開始日に関連する歴史は注目されるべきである。オスマン1世（オスマン朝の創始者）はスルタン・オルハン・ガaziの父であり、1299年7月27日、ニコメディアの地域、すなわちニコメディア市に近いバフェウスの戦いにおいて、ビザンツ帝国に対する重要な初期の勝利を収めた。ニコメディアは、ローマおよび初期ビザンツ史においてきわめて重要な首都であった。

父と子

1299年7月27日、オスマンの軍勢は、地方総督に率いられたビザンツ軍を打ち破った。この戦いは、オスマンがビテュニア（アナトリア北西部）で権力の集約を開始したのちに収めた、最初期の主要な独立軍事的成功の一つと見なされている。それは、小規模なトルコのベイリク（部族的公国）が、やがてビザンツ領に挑み、これを征服するに至る新興勢力へと移行してゆくうえでの重要な一步を画した。その日付は、最終的には1453年のコンスタンティノーブル陥落におけるオスマン帝国の成立へとつながった、イスラームの成長期の始まりを示している。オスマンはガーズィー戦士（イスラーム的動機をもつ辺境の襲撃者たち）を用い、そこから、ガーズィーの辺境戦士たちが、オスマンの時代から始まり、さらにその子オルハンの時代へと進むにつれて、より組織化された軍隊へと段階的に発展してゆく形成が始まった。オスマンの遺産における他の重要な要素の一つは、それがイスラームに財産の保持を可能にしたことである。これに対し、ガーズィー戦士たちの戦法は、無秩序な一撃離脱の戦術によって、彼らに勝利の戦利品だけを残し、領土は決して残さなかった。

1299年7月27日、オスマンはニコメディアの地域において遠征を開始し、その三十四年後、彼の子は首都ニコメディアに対して四年間にわたる包囲を開始した。初めにおいては父が、終わりににおいては子がいる。戦争はニコメディアとして表される地域に対して始まり、そしてニコメディアの地域の首都であるニコメディアの攻略をもって終わる。1299年から1337年までは三十八年間であり、預言的には「三十八」という数は立ち上がることを象徴している。

「いま立って、ゼレデの川を渡れ」と私は言った。そこで私たちはゼレデの川を渡った。カデシュ・バルネアを出てからゼレデの川を渡るまでの期間は三十八年であった。ついに、主が彼らに誓われたとおり、戦いに出る世代の者たちはことごとく宿営の中から絶え失せた。申命記 2:13, 14.

1299年7月27日から1449年7月27日に至る百五十年は、黙示録第九章の第二の災いにおけるオスマン帝国の成立へと至らせた期間を表している。ニコメディアを段階的に征服した三十八年は、一人の父（オスマン）によって始まり、その子（オルハン）によって終わった。この期間は、一つの部族的公国が帝国へと段階的に興隆していく最初の歩みを描写している。

1299年7月27日から1449年7月27日までの百五十年の中には、三十八年の終わりを示す四年間の包囲が含まれている。ニコメディア征服の開始は父オスマンによるものであり、その終結は1333年から1337年に至る四年間の包囲によって成し遂げられた。この包囲はオスマンの子によって遂行された。

1449年7月27日にその百五十年が終わったとき、ビザンティン帝国の皇帝コンスタンティノス十一世、すなわち東ローマ最後のコンスタンティヌスは、帝位に就くためにトルコ人の許可を求めた。その日からコンスタンティノーブルの征服に至るまで四年であった。その四年はコンスタンティノーブル包囲をもって終わり、最後のコンスタンティヌスはその包囲の中で死んだ。イスラームの興隆は、百五十年の預言の最初の三十八年によって表されており、それは四年にわたる包囲において頂点に達した。百五十年が終わったとき、イスラームは、当時トルコ人が有していた力によって東ローマが辱められる地点にまで台

頭していた。1449年7月27日の屈辱から四年の後、コンスタンティノーブルが包囲によって陥落したとき、東ローマは滅亡へと至った。最初の三十八年の終わりは包囲によって画され、オスマン帝国の確立もまた包囲によって画されている。

38と40

申命記においてモーセが示した象徴としての三十八という数は、荒野における四十年のさすらいという裁きの最後の三十八年を表している。したがって、象徴としての三十八という数は、四十という数との関連を有している。オスマンは1299年7月27日にニコメディアの領土を奪取し、その三十八年後にその子はその領土の首都を奪取した。その領土も首都も、ともにニコメディアであった。歴史家たちはこの戦いを、オスマン帝国の勃興のまさにその始まりを示す「二つの」段階の第一として位置づけている。歴史によって示される第二の段階は、1301年のニカイアの戦いである。そこで父オスマンはニカイアと呼ばれる領土を奪取し、そして1331年、三十年後に、その子がかつてのローマの首都であったニカイアという名の首都を奪取した。

1299年およびニコメディアの戦いに関して言えば、二つの段階のうち第一の段階に続く第二の段階は、二年後の1301年に到来した。1299年は三十八の象徴であり、その二年後（四十）に、ニカイアの領土は父によって奪取される。古代イスラエルが立ち上がって約束の地を占領した際の三十八と四十の関係は、1299年7月27日と1301年のうちに表されている。イスラムの台頭におけるそれら最初の二つの段階は、父がその領土を征服することによって始まり、終わりににおいて子がその領土の首都を征服するという軍事的遠征によって画されている。二つの首都が陥落したとき、それらはいずれも包囲戦によって陥落した。両方の首都は、ある時点において東ローマの首都であった。

1299年と1301年は1840年8月11日にその結末に達するが、これは1838年の歴史を表している。その年、リッチは、最終的に1840年8月11日に成就することになる三百九十一年十五日の預言について、自らの見解と予測を初めて公にしたのである。ミラー派にとって立ち上がる二つの段階は、1838年と1840年であった。

「1840年には、預言のもう一つの注目すべき成就が広範な関心を引き起こした。二年前、再臨を宣べ伝えていた主要な牧師の一人であるジョサイア・リッチは、黙示録第9章の解説を公表し、オスマン帝国の没落を予告した。彼の計算によれば、この勢力は『西暦1840年、8月中のある時に』打ち倒されるはずであった。しかも、その成就のわずか数日前に、彼は次のように記した。『第一の期間である150年が、デアコゼスがトルコ人の許可によって王位に就く以前に、正確に成就したものと認め、また391年と15日がその第一の期間の終了時に始まったとすれば、それは1840年8月11日に終わることになる。その時、コンスタンティノーブルにおけるオスマンの勢力が打ち砕かれるものと予期される。そして、私は、まさにそのとおりであることが明らかになると信じる。』 - Josiah Litch, in Signs of the Times, and Expositor of Prophecy, August 1, 1840.」

「まさに指定された時に、トルコは、その大使たちを通して、ヨーロッパの同盟諸国の保護を受け入れ、こうして自らをキリスト教諸国の支配の下に置いた。この出来事は、その予言を正確に成就した。このことが知られると、多くの人々は、ミラーとそ

の同労者たちが採用していた預言解釈の原則の正しさを確信し、再臨運動には驚くべき推進力が与えられた。学識と地位のある人々が、説教においてもその見解の出版においてもミラーと結びつき、1840年から1844年にかけて、この働きは急速に拡大した。」『各時代の大争闘』334、335頁。

リッチの「38」の予測と、彼の「40」に関する訂正された見解には、訂正された予測の十日前、八月一日に彼が記した最後の声明が含まれている。聖書預言の正しい方法論を世に確信させたのは、その予測の成就であった。古代イスラエルの立ち上がりを書いた三十八年には、紅海渡渉からカデシュにおける最初の反逆に至るまでの二年間が含まれていた。

わたしの栄光と、わたしがエジプトおよび荒野で行ったしるしを見ながら、すでに十度もわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかったそれらの者たちは、わたしが彼らの父祖たちに誓った地を見ることは決してない。また、わたしを怒らせた者はひとりとしてそれを見ることはない。民数記 14:22, 23。

その反逆は、十の試みの最後のものとして位置づけられている。十の試みから成る二年間の試験期間に、荒野における三十八年が加わったことは、1838年と1840年を予表しており、そして1840年には十日間の期間が含まれていた。

そして、1299年7月27日にオスマンとともに始まるイスラムの興隆の起点は、1337年に四年間の包囲をもって終わる三十八年の期間を開始する。1299年7月27日は、歴史家たちがオスマン帝国興隆の起点として認める二つの段階の第一であり、第二の段階は1301年であった。1299年と1301年におけるニコメディアおよびニカイアの戦いという二つの段階は、1838年と1840年を予表している。預言の初めは終わりを例証する。

ニコメディアとニカイアは、そのそれぞれの歴史において、いずれも一時的に東ローマの首都として機能した。もちろん、最終的にはコンスタンティノープルが330年から1453年に至るまで東方の首都となった。ニコメディアとニカイアはコンスタンティノープルの陥落を予型するものである。これらはすべて、イスラムによる包囲のゆえに陥落したのであり、それは、イスラムがまずその地域の支配権を掌握し、その後に首都を攻略するという一連の遠征の結末を書するものであった。

1333年から1337年までの最初の四年間の包囲は、預言が終結した1449年から1453年までの四年間を表している。三百九十一年と十五日後、イスラムは抑制され、ミラー派は、1299年7月27日および1449年7月27日の歴史のアルファの歴史において表された「三十八と四十」という特質に示される預言的力のもとに「立ち上がる」。イスラムの興隆と、神の終わりの日の使者たちの興隆とは、三十八と四十の数的関係によって構成される一つの数的象徴によって表されている。

エゼキエル三十七章において、イスラムは、死んだ枯れた骨の上に吹きかけられ、彼らが大軍として立ち上がるための東風のメッセージである。エゼキエルのメッセージが到来すると、1838年および1840年のミラー派の歴史においてそうであったように、立ち上がりが始まる。そのメッセージは9/11に到来し、やがて来る日曜法の時、それらの骨は大軍として立ち上がる。終わりの日における勝利する教会としての神の軍勢の引き上げは、18

38年および1840年によって予型されている。9/11から日曜法に至る期間は1840年から1844年によって予型されていたが、それはまた、2023年12月31日からナッシュビル¹の火の玉に至る期間をも予型している。

東ローマ

コンスタンティヌス一世（大帝）による帝国分割から最後のコンスタンティヌスに至るまでが、東ローマの預言的歴史を表している。したがって、この預言的期間は、彼らの名によって示されるとおり、預言的また象徴的な父と子によって画されているのである。ただし、コンスタンティヌス大帝とコンスタンティヌス十一世との間に直接の血統上の継承があったわけではない。最初と最後のコンスタンティヌスは、また預言的にアルファとオメガの象徴としても表されており、父（アルファ）はコンスタンティノープルを首都として選び、子（オメガ）は、コンスタンティノープルが首都であることをやめたその包囲戦の中で死んだ。東ローマの預言的期間は、最初と最後のコンスタンティヌスによって画されている。1299年7月27日に始まった150年の期間は、38年の期間を含み、40年の包囲をもって終わる。その包囲は1449年から1453年を予表していた。ニコメディア遠征は、一つの領土が征服されることによって始まり、その領土の首都が征服されることによって終わった。最初と最後のコンスタンティヌスの場合と同様に、ニコメディアの征服は父（最初の者）によって始まり、子（最後の者）によって終わった。

四年

百五十年の最初の時期における四年間の包囲は、コンスタンティヌス最後の者が1449年に屈辱を受けてから、1453年にコンスタンティノープルが包囲され陥落するに至るまでの四年間へと導いた。第二の禍の時の預言は、三百九十一年十五日を表すものであり、1449年7月27日に始まり、1840年8月11日に終わった。その日付は、シスター・ホワイトが神の力の栄光ある顕現と呼んだ四年間の期間の始まりを示している。

「第三天使の使命の宣布に加わるその天使は、その栄光をもって全地を照らすのである。ここには、世界的な広がり、かつてない力を伴う働きが予告されている。1840年から1844年の再臨運動は、神の力の栄光ある現れであった。第一天使の使命は、世界のあらゆる伝道地にまで携えられ、またある国々においては、十六世紀の宗教改革以来、いかなる地においても見られたことのないほどの大いなる宗教的関心が呼び起こされた。しかし、これらをもなお凌駕するものが、第三天使の最後の警告のもとに起こる力強い運動なのである。」『各時代の大争闘』611頁。

イスラムは1840年8月11日に抑制され、その後の四年間の期間は、ペンテコステにおける聖霊の注ぎと、また黙示録十八章の力強い御使いの降下の双方と一致している。その時、第三の禍のイスラムによって、9/11にニューヨークの「大きな建物」が打たれたのである。9/11は、十四万四千人のための封印の時の始まりを画する。封印は一つの期間であり、その封印の期間の終わりは、その期間の初めの特徴を備えている。キリストが9/11に降下されたとき、それは、最終的な封印の期間が始まった2023年12月31日に、二人の証人を復活させるためにミカエルが降下することを予表していた。

ニネベの戦いであるその鍵は、イスラムのさまざまな解放を表しており、それは1453年までに東ローマを倒すことになる。第十節の「五か月」に当たる百五十年のうち、その始まりにも終わりにも、それぞれ四年間の期間が含まれている。これら二つの四年間の期間は、三百九十一年と十五日の終結と結び付いており、それは1840年から1844年までの四年間を画していたのであって、その時キリストは「その栄光をもって全地を照らす」のであった。1844年において、預言的時はもはや適用されなくなった。なぜなら、時は「もはやない」からである。

また、永遠に生きておられる方、すなわち天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを創造された方をさして誓い、もはや時が延ばされることはないと言った。黙示録 10:6。

1333年から1337年、1449年から1453年、1840年から1844年

四年期から成るその三本の線は、9/11から日曜法に至る封印の時と一致しており、また、2023年12月31日から、ナッシュヴィルの火の玉をもたらすためにイスラムが再び解放たれる時に至るまでを表象する、9/11から日曜法に至るフラクタルとも一致している。

2023年12月31日からナッシュビル火球に至るまでの預言的フラクタルは、いずれも9/11から日曜法に至る封印の時と一致する、三つの四年の預言的期間によって予表されてきた。したがって、四人の証人が2023年12月31日からナッシュビル攻撃に至る歴史を特定しており、そしてニネベの戦いこそが、これら各証人にとっての「鍵」であった。1333年、1449年、1840年、そして9/11は、いずれも転換点——「鍵」——であった。

「過去の歴史から学ぶべき教訓がある。そして、すべての者が、神が今もなお、これまで常にそうしてこられたのと同じ方針に従って働いておられることを理解するために、これらのことに注意が促されている。神の御手は、その御業のうちに、また諸国民の間において、今も見られるのであり、それは、福音がエデンにおいてアダムに初めて宣べ伝えられて以来、常にそうであったのと全く同じである。

「諸国民の歴史と教会の歴史には、転機となる時期がある。神の摂理のうちにあって、これらのさまざまな危機が到来するとき、その時のための光が与えられる。もしそれが受け入れられるなら、霊的前進がある。しかし、それが退けられるなら、霊的衰退と破船がこれに続く。主は御言葉のうちに、福音の攻勢的働きが、過去においてどのように進められてきたか、また将来、サタンの勢力が最後の驚くべき行動を起こす終末の戦いに至るまで、どのように進められるかを明らかにしてこられた。」『Bible Echo』1895年8月26日。

ニコメディア

284年に皇帝となった後、293年、ディオクレティアヌスは帝国を法的に東西に分割して四分統治制を確立した際、ニコメディアをローマ帝国東方の首都として選定した。ニコメディアは数十年にわたり、東方における主要な行政上および軍事上の首都として機能した。大帝コンスタンティヌスも、近隣のビュザンティウムに新都を建設することを決定する前（彼は330年にこれをコンスタンティノープルと改称した）、ここを拠点として用いた。コンスタンティノープルが主要な首都となった後も、ニコメディアはマルマラ海東岸

の戦略的要地に位置する重要な地域中心地であり続けた。したがって、ニコメディアはローマやコンスタンティノープルのような恒久的首都ではなかったものの、ローマ史における重要な過渡期において、正式に東方の首都として指定されていた。百五十年の初めに東ローマの一つの首都が征服され、その終わりに東ローマの一つの首都が征服される。両方の征服には包囲戦が含まれていた。

ディオクレティアヌス

皇帝ディオクレティアヌスは、293年に四分統治制を導入した際、ニコメディアをローマ帝国の東方首都として正式に定めた。四分統治制は、帝国を西方と東方に分ける体制から成り、東西それぞれに上級皇帝（Augusti）と下級皇帝（Caesar）が置かれ、「テトラルキア」という語が示す四という数を構成していた。

アルファでありオメガである方

ディオクレティアヌスはスミルナの教会のオメガの象徴であり、ネロはアルファの象徴である。コンスタンティヌス大帝はペルガモンの教会のアルファの象徴であり、ユスティニアヌスはオメガの象徴である。

ローマの東西への「法的」分割（それは長続きしなかった）はディオクレティアヌスによって成し遂げられ、ローマの東西への預言的分割はコンスタンティヌスによって成し遂げられた。スミルナによって表される、迫害の第二の象徴的教会の歴史の期間において、ローマは法的に東西に分割され、ペルガモによって表される、妥協の第三の象徴的教会の歴史において、ローマは預言的に東西に分割された。293年はアルファであり、330年はオメガであった。そして330年5月11日、コンスタンティヌス大帝はコンスタンティノープルを帝国の首都として奉献した。

293年にディオクレティアヌスによって行われた法的分割は、その後続いた内戦によって崩壊し、313年のミラノ勅令に至った。そのとき、東方のコンスタンティヌスと西方のリキニウスがミラノ勅令を発し、キリスト教を合法化し、事実上、テトラルキア——四人の統治者が協調して統治する体制でありながら、二つの主要な勢力（西方のコンスタンティヌスと東方のリキニウス）の争いへと崩れた制度——を終わらせた。この法的分割は、崩壊をもたらしたものであり、分割から分割に至る二十年間を表している。そして、その二つの分割はいずれも体制の崩壊を引き起こした。

スミルナの教会は、西暦64年、ローマの大火がネロによって、ネロがその出火の責任をキリスト者たちに負わせて彼らを迫害するために利用されたときに始まった。ネロは迫害の始まりを画し、また終末の時代における最後の迫害を予表している。その最後の迫害は、恩恵期間の終結に至るまで続き、そのとき教皇権は、これを助ける者なくしてその終わりに至る。かくして、迫害の最初の時期はローマの焼亡をもって始まり、そしてローマの焼亡をもって終わる。

あなたが獣の上に見た十本の角、これらは淫婦を憎み、彼女を荒れすたれた裸のものとし、その肉を食らい、彼女を火で焼き尽くすであろう。黙示録 17:16

スミルナの教会は、ローマの大火がネロによって、ネロがその出火の責任をキリスト者に帰して彼らを迫害するために用いられた64年に、ネロとともに始まった。二百五十年後、それは313年のミラノ勅令をもって終わった。この「勅令」は、ディオクレティアヌスの法的分割によって始まった二十年の期間の終結であり、また、ネロによって始まったスミルナの二百五十年の終わりでもあった。スミルナの教会とネロによって表される二百五十年の迫害には、ディオクレティアヌスによってもたらされた最も苛烈な十年の迫害が含まれていた。その十年の迫害は、293年に彼が帝国を法的に分割したことによって始まったディオクレティアヌスの二十年の後半であった。293年にディオクレティアヌスによる東西への法的分割から、二つの十年期から成る二十年の期間が始まった。

ディオクレティアヌスは帝国を法的に東西に分割し、それによって、のちにコンスタンティヌスによって成就される預言的分割を予表した。ディオクレティアヌスの分割は東西に分かれていたが、その構成は、東方に二人の統治者、西方に二人の統治者を置くものであった。各地域には、一人の主たる統治者と一人の従たる統治者がいた。303年2月23日、ディオクレティアヌスはキリスト者に対する複数の「勅令」の最初のを発し、これが大迫害（ディオクレティアヌス迫害とも呼ばれる）の開始を画することとなった。それは、ローマ帝国におけるキリスト者への迫害の中で、最も苛烈かつ広範なものであった。

スミルナにある教会の御使いに書き送れ、『最初であり最後である方、死んだが生きておられる方が、こう言われる。わたしは、あなたのわざと、患難と、貧しさとを知っている（しかし、あなたは富んでいる）。また、ユダヤ人であると自称しながら実はそうではなく、サタンの会堂に属する者どもの冒瀆をも知っている。あなたが受けようとしている苦しみを、少しも恐れてはならない。見よ、悪魔は、あなたがたを試みるために、そのうちのある者を獄に投げ込もうとしている。あなたがたは十日の間、患難を受けるであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。耳のある者は、御霊が諸教会に語られることを聞きなさい。勝利を得る者は、第二の死によって害を受けることは決してない。』黙示録 2:8-10。

大迫害は、ディオクレティアヌスの後継者たち（とりわけガレリウス）のもとで313年まで継続し、ミラノ勅令によって終結した。ネロは迫害のアルファ的象徴であり、スミルナの教会によって表される預言的期間のオメガ的迫害としてのディオクレティアヌスを典型的に示している。迫害は、東方のコンスタンティヌスと西方のリキニウスとの間の政略結婚と条約によって終結した。313年2月、コンスタンティヌスとリキニウスはミラノで会見し、ミラノ勅令を発して、帝国全土のキリスト者（および他の者たち）に宗教的寛容を認めた。この政治的同盟を強化するために、リキニウスはこの会見の最中またはその前後にコンスタンティア（コンスタンティヌスの異母妹）と結婚した。この結婚は、二人の皇帝の間の合意を確認する、典型的なローマの政略的同盟であり、長年の内戦の後、一時的に帝国の安定に資した。しかし、この同盟は長続きしなかった。のちにコンスタンティヌスとリキニウスは互いに戦い、324年にコンスタンティヌスがリキニウスを破って、唯一の支配者となった。

ネロからコンスタンティヌスに至るまで、二百五十年にわたるスミルナの預言的期間は成就し、313年には妥協の教会であるペルガモンの教会が始まり、538年のテアテラの教

会をもって終わった。スミルナの二百五十年は迫害の期間を表しており、その全体期間の終わりにおいて、ディオクレティアヌスによる迫害は、黙示録の「十日」（十年）を成就した。そこでは、最も激しい迫害の時期が全体期間のフラクタルを表している。その十年は二百五十年のフラクタルである。その十年はネロの迫害のオメガを表し、その結末において、帝国はオメガとして東西に分裂した。

結婚と離婚

スミルナは64年のローマ炎上に始まり、二百五十年後の313年、ミラノ勅令および東西の政治的婚姻をもって終わった。迫害の十年間のフラクタルは303年に始まり、313年、ミラノ勅令および東西の政治的婚姻をもって終わった。ディオクレティアヌスによる293年の東西の法的分割に始まる二十年間は、313年、東西の政治的婚姻をもって終わった。313年の東西間の婚姻条約は、324年の離婚をもって終わった。その時、コンスタンティヌスは西のリキニウスを打ち破り、ローマの唯一の支配者となった。324年の預言的離婚は、321年の最初の日曜日法から三年後に起こった。

313年から330年までの十七年間は、政治的結婚を示しており、またスミルナとネロによって表象される迫害の終結と、ペルガモによって表象される妥協の教会の始まりを示している。313年、結婚におけるペルガモの始まりに続いて、321年の最初の日曜日法において始まった迫害の開始があった。これに続いて324年の預言的離婚があり、それによって東西はコンスタンティヌスの下で一つの帝国にまとめられた。その六年後の330年に、東西への分裂が預言的に繰り返された。この十七年間は、ペルガモの教会のアルファ期間を表しており、それはティアティラの教会が538年に預言の歴史の中に到来するまで続くのである。そのアルファ期間は、330年から538年までの期間の終わりにおけるオメガの歴史を表すのである。ペルガモのオメガの歴史は、496年、508年、および533年の期間を表している。

十七年

ラフィアの戦いの時代のプトレマイオスは「十七年」統治し、またラフィアの戦いとパニウム（パニム）の戦いの間にも「十七年」があった。その十七年は、象徴的に、313年から330年までの十七年と一致する。ネロに属するスミルナの二百五十年は、ペルガモの教会の最初の十七年へと導き、さらに、それは紀元前457年の第三の decree において始まった二百五十年と結び付いている。この紀元前457年は、ダニエル書8章14節の二千三百年の起算点であり、アドベンチズムの土台であり中心の柱である。二百五十年にわたる二人の証人は、1776年に始まり本年2026年に終わる、聖書預言における第六の王国の二百五十年と一致する。

アドベンチズムの先駆者たちは、313年から330年までの十七年間を見もせず理解もしなかった。というのも、1844年の時点では、彼らはまだ第七日安息日の問題も、また太陽の日の問題さえ理解していなかったからである。とはいえ、彼らは黙示録9章10節の百五十年を認識しており、それは1840年8月11日に終わった三百九十一年十五日に至る期間の出発点となった。その理解は、「神の力の力強い顕現」を生み出した。

先駆者たちは、黙示録九章における第二の百五十年の期間を認識していなかった。彼らの基礎的理解は、黙示録九章の「新しい光」がその上に築かれる土台を成している。その光は、ニネベの戦いという「鍵」によって開かれる。その「鍵」は、預言の学徒が、ダニエル書と黙示録に表されている聖書預言のすべての王国を認識することを可能にする。すなわち、バビロン、メディア・ペルシア、ギリシア、セレウコス朝およびプトレマイオス朝の諸帝国、マホメットの王国、そしてさらに重要なことには、ローマの興亡のみならず、東ローマおよび西ローマの諸王国、またアメリカ合衆国（偽預言者）、教皇制（獣）、および国際連合（竜）の興亡をも特定することによって、ローマ帝国をいっそう拡大して示すのである。これらの諸王国のすべての興亡は、最終的に世界をハルマゲドンへと導く竜、獣、そして偽預言者の動きを証ししている。その動きはダニエル書十一章の最後の六節の中に表されており、その動きの始まりは第四十節の隠された歴史の中に表されている。

ニネベの戦いは、終末時代の出来事の連なりの中において、ローマ帝国、東ローマおよび西ローマの諸王国、ならびに教皇制ローマに関する諸証言を整合させるための預言的基準点を提供する。したがって、ニネベの戦いは、ローマに関するさまざまな預言的証言を完全に例証する鍵であり、またダニエル書十一章十四節によれば、その幻を確立するのはローマである。これらの系統を結び合わせる鍵は、ニネベの戦いである。

次回の記事において、黙示録第九章の災いを扱った前の五つの記事をまとめ始めることにします。